

経営比較分析表（令和4年度決算）

群馬県 明和町

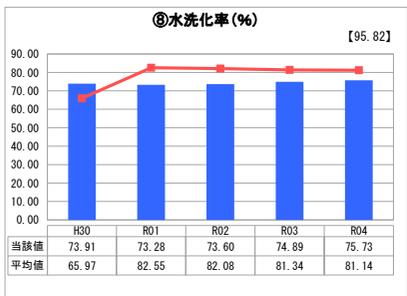
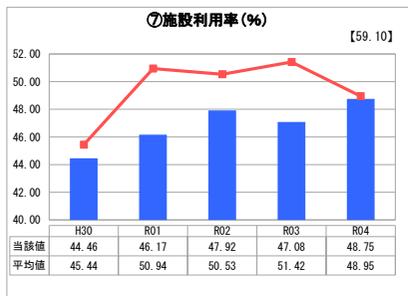
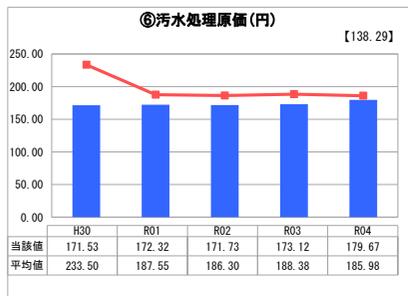
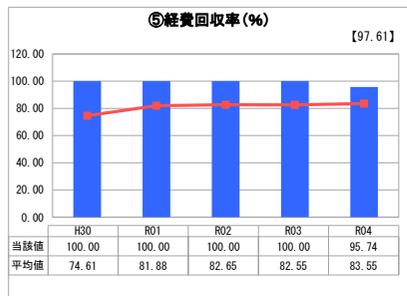
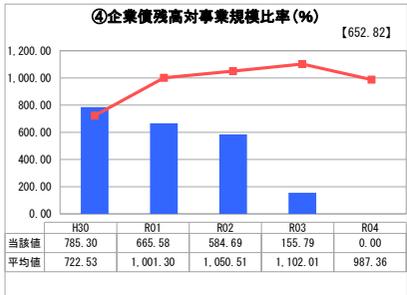
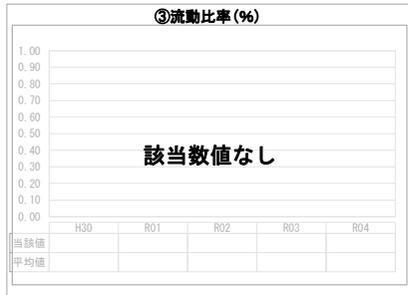
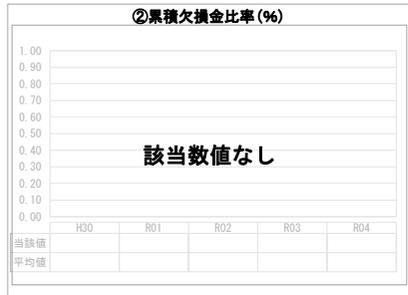
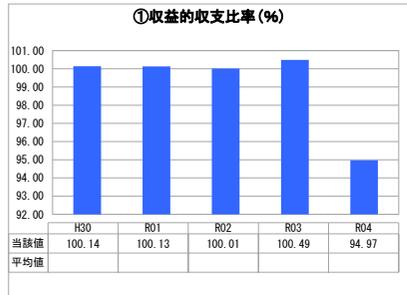
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	56.05	100.00	3,080

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
10,875	19.64	553.72
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,066	2.32	2,614.66

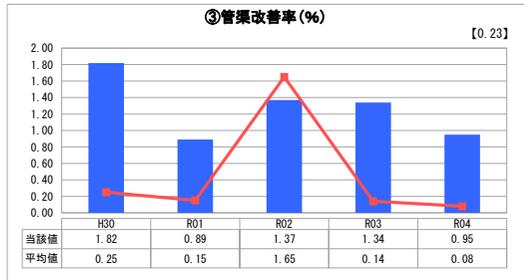
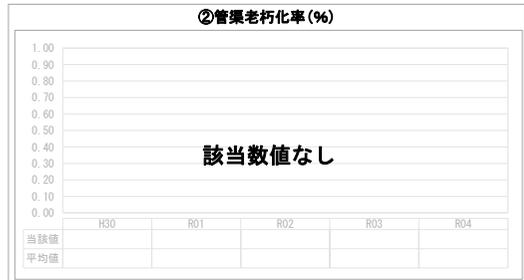
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【収益的収支比率】
地方債償還費が増加していく中、**使用料**収入等も増加傾向に有るため、H24・R04年度を除き毎年度100%以上で賄えていることから、健全な黒字運営が出来ていると言えます。今後は、一般会計からの繰入金を減らすため、更なる費用削減等の検討を行う必要があります。

【企業債残高対事業規模比率】
営業収益に対する企業債残高を示す数値で、H30年度以外は平均値に比べ低い数値で推移しています。R4年度は、使用料収入や一般会計負担金の増額により残高0となっています。

【経費回収率】
下水道使用料収入で回収すべき経費をどの程度賄えているかを示した指標であり、H25年度以降は、全ての経費を100%下水道使用料で賄えています。

【汚水処理原価】
有収水量1m³あたりの汚水処理に要した費用であり、類似団体と比較すると、低く推移しているため、下水の処理を効率的に行いながら事業が行えていると言えます。

【施設利用率】
施設・設備が1日に対応可能な処理能力に対する、1日平均処理水量の割合であり、H30年度からは全国平均値を下回っているものの、管渠の新設に伴い利用率・接続率が増え、利用率も概ね増加傾向にあり、施設の利用状況が適正規模に近づき過大なスペックは無くなってきていることを示しています。

2. 老朽化の状況について

【管渠改善率】
管渠延長に対する当該年度に更新した管渠延長の割合を示しており、管渠の更新ペースや状況を表します。管渠の新設工事を精力的に行っており、R4年度は類似団体の平均値を大きく上回る数値となっています。

【管渠・処理場の状況】
管渠については、H16年に供用開始し、年数が経過していないため、老朽化している管渠はありません。処理場については、経年劣化により機械の故障が多くなりつつあり、早期のメンテナンスや部品交換等を実施し、最小の修繕費で維持管理できるように努めます。

全体総括

【経営状況】
今後も地方債償還、総費用共に増大していく状況にありますが、現時点におきましては**使用料**収入や一般会計繰入金で賄っています。令和6年度から公営企業会計へ移行し、更なる経営の合理化を図っていきます。

【歳出】
経年劣化による処理場の費用増大が懸念されますが、点検・メンテナンスを早期に行い、深刻な故障等を未然に防ぐことで、修繕費を抑えているよう努力する必要があります。

【歳入】
管渠の更新とともに水洗化人口が増加していく見込みのため、**使用料**収入は増加する見込みです。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。